

歴史的つながり深い**結城市**と**小山市**

今秋にも友好都市を締結

結城市と栃木県小山市は、今年ともに市制施行60周年を迎えるに当たって、友好都市を締結することで合意し、今秋にも調印式を行います。県をまたいで、隣接する市が友好都市を締結するのは全国でも初めてといえます。

両市は、国指定文化財の本場結城紬の産地であるのをはじめとして、歴史的なつながりが深い地域です。本場結城紬は両市関係者の尽力で、2010年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。さらに交通網の発展により、結城市と小山市の関係はより緊密となり、市民生活でも通勤やショッピングなど県境を越えた結びつきが深くなっています。

友好都市締結の一番大きな要因となったのは、両市で生産する本場結城紬。着物離れにより生産が激減。ユネスコ無形文化遺産への取り組みを通し、本場結城紬の振興が大きな課題となりました。このため、小山市の大久保寿夫市長から結城市の前場文夫市長に対して約1年前に交流の申し入れを行い、両市で検討を進めた結果、結城紬の振興や産業や教育、市民交流など幅広い課題に対して両市が手を合わせて取り組んでいくため、友好都市を締結するという結論に達しました。

現在、両市では本場結城紬の振興や、国道4号と国道50号を軸とした道路ネットワークの形成を連携して取り組んでいます。友好都市を提携することにより、さらにイベントやフィルムコミッションなどの観光振興、公共施設の相互利用、人材育成などに取り組む意向を示してい

期待かかる医療連携への波及



国道50号と新国道4号の交わる結城市小田林。交通の要衝として発展も期待されている

ます。

結城市の前場文夫市長は、友好都市締結を発表する記者会見で、民間連携の一つの例として医療連携を挙げました。小山市の新小山市民病院は、地方独立行政法人として民間的な手法で運営されています。結城市内には2つの民間が運営する地域拠点病院があります。県境のまちで、県をまたいだ医療連携はどの地域でも大きな課題となっています。しかし、友好都市を結ぶことにより、この民間の3つの病院が今以上にスムーズに連携できる環境が整い、地域住民に大きな安心をもたらすことが期待されます。

平成28年5月19日



結城氏の居城、結城城があった「結城城跡公園」

結城氏は、結城市を中心に平安時代末期から戦国時代にかけて、下総地域一帯で活躍した。結城氏の始祖、結城朝光は、小山市を本拠とする小山政光の3男で、結城市と小山市は古代から歴史的なつながりを持っている。

結城紬も両市が産地。ユネスコ無形文化遺産にも登録されており、結城紬をはじめとして経済的な結びつきにも歴史がある。



友好都市締結の大きなきっかけとなった結城紬。産地は両市にまたがっている＝撮影協力「紬の里」